

根津美術館の展示について

Exhibitions at Nezu Museum of Art

矢 崎 格※
Itaru Yazaki

1

はじめに根津美術館の陳列ケースについて触れると、この美術館には中国の殷周時代の青銅器と清朝の乾隆帝が愛好し、所蔵した時計を展示するケースが一番奥にあり、これらの蔵品は特別展以外はほとんど移動しない。その他に常時展示替えする50余点陳列できるケースがある。

現在の陳列館が完成したのは、昭和30年で、それ以前には収蔵庫の一部を陳列室として使用していた。建物が他の美術館と比較して非常に古い時期に建てられたところから、今現在我々が展示する場合、諸々の欠点が目につく。それについて述べると、まず固定したケース全体の奥行が非常に狭く、屏風などを陳列する時、大きい物はケース内で払げることができない。そういう時は外で払げ、払けたまま運搬するわけである。六曲屏風はなんとか、かろうじてケース内で払げられるが、二曲屏風はケース内では全然動かすことができない。

総体的に固定したケースの天井が低く、三ヵ所ある中で、天井の高いケースは美術館の正面から入り向って左側のみで、ほかの二ケースはいずれも天井が低く、これら二ケースは屏風はもちろん、長い掛物も展示できない。長い掛物を掛けるには巻き上げをしなければならず、これは保存上あまり良いことではないが、どうしても長い掛物を展示しなければならない時はやむを得ない。屏風と長い掛物が陳列できるケースは一ヵ所のみということになる。このようなことから蔵品の点数からいえば、屏風だけ、または長い掛物のみの陳列は充分可能なのだが、固定ケースのこのような物理的な理由からこれらの展示はできないのである。この三ヵ所の固定ケースは向って左側が14コマ、向って右側が11コマ、二階が13コマあるが、このいずれのケースでも入口のドアが端と端の二ヵ所しかなく、真中のコマへ危険の品を陳列する場合、狭い所を長い間持って歩かなければならない。特

に真中のコマが一番陳列ケースの中でも目立つ場所なので、名品を置くことが多い。

工芸品を展示する場合、陳列の台を置くため、奥行がせまいゆえに歩く箇所がますますせまくなる。

固定ケースのガラスは傾斜している。これは掛物のしわや人のかけが反射しないように考慮してある。

以上のようにこれらケースの欠点について述べたことから、これから陳列ケースを作製する場合、どんな事について気をつけたらよいかを考えてみよう。個々の美術館の蔵品に合わせることは最も大事であるが、建物の体裁や格好よりも、まず美術品の安全を考えるべきである。それには展示する時に行動しやすくしなければならない。これが美術品の安全につながることである。これらのことをまとめてみると、次のようになる。

第1にケース内の奥行は広くゆったり取った方がよい。

第2は天井も高い方が長い掛物を展示する時に巻き上げしなくてすみ、美術品をいためることが少ない。

第3は長いケースの入口は多い方が、ケースの狭い箇所をつなわたりするような格好で歩かなくてすみ。

固定ケースについて以上のことを感じた。

2

次にこれまで開催されてきたこの美術館の展示についてのべると、ここの常設展示は昭和40年より以前は館蔵品の中から名品をわざわざ選んで陳列し、展示替えも比較的ゆっくりであった（この展示方法を我々は俗に「お子様ランチ」と呼んでいた）。しかし昭和40年以後、題名のついた展示を催すことになり、それが今現在まで続いている。このようにテーマ展に切り替えた理由はテーマ展以前には同じ蔵品が何回も登場する場合がある。しかし題名のついた展示になると、これまで出品したことのないものも多く陳列できるだろうという推測のもとで実行された。またこの頃から茶友会（茶席弘仁亭を使

名 称	期 間	備 考
茶 器 茶 掛 展	43. 1. 6～ 1. 28	古筆, 墨蹟, 絵画, 茶入, 茶碗など
茶 の 湯 釜 展	2. 1～ 3. 10	茶の湯に用いる釜, 風炉, 蓋置, 炭斗など
染 織 展	3. 14～ 4. 7	古代裂, 名物裂, 能衣裳, 実用衣裳, 裂手鑑, インカ裂
阿部コレクション展	4. 10～ 5. 19	大阪市立美術館蔵品の中国画, 特別展
初 夏 名 品 展	5. 22～ 6. 19	5. 22～6. 2 国宝カキツバタ図と那智滝図
明 清 の 漆 工	6. 19～ 7. 31	明初～清末 彫漆, 螺鈿, 沈金, 存星
青 磁 展	8. 31～ 9. 29	宋代から明末の中国青磁と高麗青磁
仏 画 展	10. 4～ 11. 3	礼拝像, 伝歴図, 曼荼羅, 説話画, 平安～室町時代の作品
乾 山 展	11. 6～ 12. 1	大阪市立美術館, 徳川美術館共催特別展
書 跡 展	12. 7～44. 1. 19	写経, 歌書, 禅林墨跡, 消息
香 炉 展	1. 22～ 2. 23	日本, 朝鮮, 中国, 和蘭などの陶磁の香炉
墨 絵・墨 画	2. 27～ 3. 30	室町時代及び宋・元時代から江戸時代の作品
蒔 絵 展	4. 3～ 4. 29	平安—江戸時代迄の作品
祥 瑞 展	5. 3～ 6. 1	特別展
明 清 の 漆 工	6. 7～ 7. 31	昨年の同時期の展示品とは多少異なる
皿 と 鉢	9. 2～ 10. 5	日本, 中国, 朝鮮の陶磁器
館蔵茶碗百撰展	10. 9～ 11. 9	特別展
仏画・仏像・仏具	11. 13～ 11. 30	4～5世紀のガンダーラ仏, 鎌倉末の垂迹画, 金石木彫の仏像, 礼拝仏曼荼羅, 説話絵巻
染 織 展	12. 4～45. 1. 18	以前の同展と8割ぐらい異なった作品
茶 器 展	1. 22～ 3. 1	茶入, 棗, 茶杓, 茶碗, 花生, 香炉, 香合, 水指, 釜, 蓋置, 建水
館蔵絵画展	3. 5～ 4. 12	日本, 中国の中世近世の絵画, 宗教画を除く
疎松庵素玩展	4. 16～ 5. 5	良寛の書と李朝の陶磁, 秋山順一氏所蔵品, 特別展
古 瀬 戸 展	5. 9～ 5. 31	徳川美術館(名古屋)と共催, 特別展
うるしの盆	6. 4～ 7. 31	堆朱, 堆黄, 堆黒, 彫彩漆, 屈輪, 根来, 蒔絵
写 経 展	9. 1～ 9. 20	
国 焼 茶 碗 展	9. 23～ 10. 25	鼠志野(山の端), 信楽(水の子), 中尾唐津
中 興 名 物 展	10. 31～ 11. 23	特別展
花 生 展	11. 28～46. 1. 10	陶磁, 金工, 木竹工
能面と能衣裳	1. 14～ 2. 14	翁, 山姥, 頼政などの能面と唐織, 厚板, 縫箔などの能衣裳
茶 の 湯 釜	2. 18～ 3. 21	古天明, 古芦屋, 京釜など
館蔵中国画展	3. 25～ 4. 11	最近の調査にもとづいた未公開資料の紹介
尾張徳川家初期茶道具展	4. 17～ 5. 16	徳川美術館蔵品, 特別展
花 鳥 展	5. 20～ 6. 13	花鳥画, 花鳥文様のある絵画, 書跡, 陶磁, 漆工, 武具, 国宝燕子花図屏風
漆 工 展	6. 17～ 8. 1	蒔絵, 平文, 朱漆, 黒漆, 堆朱, 堆黒, 彫彩漆, 螺鈿など技法を中心とした展示
山 水 展	9. 1～ 9. 5	
	9. 8～ 9. 26	山水画, 山水文様のある陶磁, 漆工, 国宝那智滝図は18日から26日
絵 巻 物	9. 30～ 11. 3	重要文化財天狗草紙, 重要文化財絵過去現在因果経
美 濃 古 陶	11. 6～ 12. 5	徳川美術館, 大阪市立美術館と共催, 特別展
刀剣の小道具展	12. 9～47. 1. 16	最近の調査にもとづいて陳列する, 小柄, 縁頭, 鐙, 三所物
衣 裳 展	1. 20～ 2. 20	誰ヶ袖図屏風, 実用衣裳, 能衣裳
高 麗 茶 碗 展	2. 24～ 3. 29	井戸・三島, 刷毛目, 熊川, 雨漏
墨 画・墨 蹟	4. 1～ 4. 25	

根津美術館の展示について〈矢崎〉

名 称	期 間	備 考
香 合 名 品 展	4. 29～ 5. 28	特別展
蒔 絵 展	6. 1～ 7. 2	
青 磁 展	7. 6～ 7. 30	宋から明末、江戸時代、高麗時代の作品
	9. 1～ 10. 10	上記とは多少陳列替
館 蔵 名 品 展	10. 14～ 10. 29	国宝燕子花図屏風 10/14～22, 絵画, 書跡, 陶磁, 漆工, 金工, 染織
香 灯 展	21. 3～ 11. 26	陶磁と漆工
染 織 展	12. 1～48. 2. 4	後半(1月)に多少展示替え
花 生 展	2. 8～ 3. 4	陶磁, 金工, 木竹工
室 町 時 代 の 美 術	3. 8～ 4. 8	この時期に製作されたもの. 水墨画, 絵巻物, 文人の書状, 硯箱, 香合, 能面, 鐺, 茶の湯, 釜
館 蔵 茶 碗 展	4. 12～ 5. 13	国焼, 唐物の古種, 信楽水の子, 志野山の端, 青井戸柴田, 雨漏堅手
花 鳥 展	5. 17～ 6. 10	花鳥画, 花鳥文様のある陶磁, 漆工, 金工, 染織 国宝燕子花図屏風 5/17～5/27 重要文化財藤花図屏風 5/29～6/10
日 本 の 漆 芸	6. 14～ 7. 31	平文, 螺鈿, 蒔絵, 根来
書 跡 展	9. 1～ 9. 30	写経, 歌書やその断簡禅林墨跡消息, 東京国立博物館小松茂美氏が陳列指導
近 世 の 瀬 戸 展	10. 4～ 10. 28	特別展
山 水 展	11. 2～ 12. 2	南宋時代や室町時代の水墨画, 山水文のある陶磁, 漆器など 国宝那智滝図は 2日～11日まで
茶 器 茶 掛	12. 6～ 49. 1. 22	茶入, 茶碗, 水指, 花入, 茶杓釜, 墨蹟
皿 と 鉢	1. 31～ 3. 3	書状, 絵画など, 中国, 朝鮮, 日本の皿と鉢
絵 巻 物 展	3. 7～ 3. 31	絵過去現在因果経, 十二因縁縁起, 天狗草紙
仏 画 展	4. 5～ 4. 29	礼拝像, 伝歴図, 曼荼羅, 垂迹画, 図像
山 水 花 鳥 展	5. 3～ 5. 26	絵画, 書蹟, 陶磁, 漆工, 国宝燕子花図展風 3～12
明 清 の 工 芸 展	5. 30～ 6. 30	堆朱, 堆黒, 沈金, 存星, 螺鈿, 漆工芸, 青磁, 染付, 赤絵, 陶磁
水 指 展	7. 4～ 7. 31	志野, 織部, 瀬戸, 備前, 伊賀, 三島, 染付. 南蛮など
写 経 展	9. 1～ 9. 29	奈良朝～南北朝. 色紙経. 因果経. 中尊寺経. 神護寺経
茶 器 名 品 展	10. 3～ 11. 3	茶碗, 茶入. 花入. 水指など中興名物を中心
大 名 物 展	11. 9～ 12. 1	特別展
金 工 展	12. 7～ 50. 1. 26	古銅花入, 釜, 水指, 独鈷, 振鈴, 錫杖頭
織 と 染	1. 30～ 2. 23	古代裂, 名物裂, 小袖, 振袖, 打掛, 唐織, 厚板
唐 物 茶 陶	2. 27～ 3. 30	中国産茶陶, 茶入, 茶碗, 花入, 香炉, 香合, 水指, 皿, 鉢
新収秋山コレクション展	4. 3～ 4. 29	李朝陶磁, 良寛の書など, 小特別展
日 本—18世紀—	5. 3～ 5. 25	元禄から寛政期. 絵画, 書跡, 陶磁, 漆工, 金工, 染織 国宝燕子花図屏風 3～14 重要文化財藤花図屏風 15～25
香 炉・香 合	5. 29～ 7. 31	11～19世紀日本, 朝鮮, 中国, オランダ陶磁, 漆工, 金工
古 筆 と 蒔 絵	9. 2～ 9. 28	平安, 鎌倉時代の歌切, 料紙箱, 硯箱, 歌書筆筥
仏 画 展	10. 3～ 11. 3	国宝那智滝図 3～12
宗 雅 と 抱 一	11. 8～ 11. 24	特別展
国 焼 茶 碗 展	11. 28～51. 1. 25	種類別でなく, 形や色の違うものを交互に陳列し, バラエティーに富ませた. 後半1部展示替
能 面 と 能 衣 裳	1. 29～ 2. 29	翁, 山姥, 小面, 頼政, 般若など能面, 唐織, 厚板, 縫箔, 長絹, 法被, 狩衣

名 称	期 間	備 考
中国の陶磁展	3. 4～ 3. 28	先史時代の彩陶, 唐代の三彩, 南宋の青磁
墨 画・墨 跡	4. 1～ 4. 25	国宝, 漁村夕照図, 重要文化財一山一寧墨蹟
花 鳥 展	4. 29～ 5. 30	国宝燕子花図屏風は 4. 29～5. 9
青 磁 展	6. 3～ 7. 31	
江戸時代の茶道具	9. 1～ 10. 10	江戸時代に製作された茶入, 茶碗, 花入, 水指, 釜, 茶掛
東 山 御 物 展	10. 16～ 10. 24	「雑華室印」に関する新史料を中心に特別展
物 語 絵 展	10. 28～ 11. 28	主体は絵巻物, 経典類, 縁起類, 伝記類, その他工芸品, 石山寺歌書筆筭
香 炉 展	12. 3～52. 1. 23	日本, 朝鮮, 中国, オランダの陶磁器と金工, 漆工
花 生 展	1. 27～ 3. 6	銅器, 陶磁器(青磁, 金襴手, 赤絵, 染付, 伊賀, 信楽, 備前), 胡銅, 木竹工
詩 歌 の 美 術	3. 10～ 3. 27	光悦詩歌巻, 白氏書巻, 古筆, 工芸品
高 麗 茶 碗 展	4. 1～ 4. 24	井戸, 刷毛目, 三島, 斗々屋など種類別に分け系統的に陳列

用して毎月第2土曜日に行なわれている友の会)にあわせて,ほとんど毎月展示替えをするようになった。このテーマ展も昭和40年から42年まではまだ試験期間ともいうべきであまいな形で行なわれていたが,昭和43年頃からやっと板についてきたようである。そこで,昭和43年1月から52年4月までの展覧会を整理すると前表のようになる。

これらの表に示した展覧会で特別展以外の常設展には,ほとんど外部から美術品を借用することなく,館藏品だけで行なっている。毎年8月は1ヵ月間休館し,館内の整備にあたっている。当館は茶道具が多いことや茶友会が行なわれているところから茶に関する展覧会が多い。

テーマ展になってから,その題名により,ちがう観客が見えるようになった。たとえば能面の展示ならその専門家が,写経・陶磁なども同じで,それぞれ分野の異なった専門家が見え,いろいろの話が伺えるようになった。

しかしこのテーマ展も実行してから10年以上たち,今後のこともそろそろ考えなければならぬ時期にきていると思う。この展示法にも限界があり,テーマに関連しないものは出品できないことは当然である。テーマにはめられないものがかなりあることはいうまでもない。テーマもやはりはじめた時はよいアイデアが浮ぶのであるが,だんだんとマンネリズムになり,面白いテーマが考えられなくなる。5年に1度ぐらいの割合で同一のテーマの展覧会を催すことが多い。

毎月の展示テーマはなるべく同一系統の陳列を続けたいようにしている。たとえば1月が陶磁器を展示する時は2月は染織といったように,陶磁器の展示が2ヵ月あ

るいは3ヵ月も続くのをさせている。

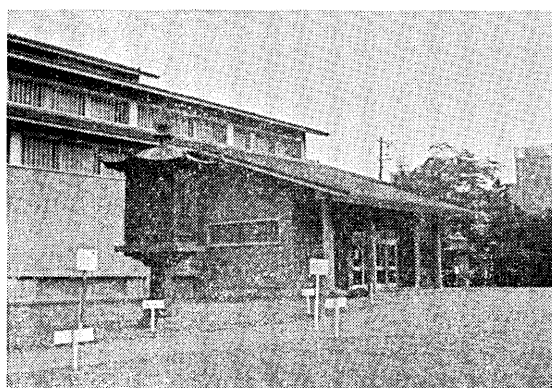
毎月このように展示替えしても当館の藏品は,まだまだ収蔵庫の中にねむっているものが多く,これらの藏品をできる限り陳列できるチャンスをつくり,一般の人々に見ていただきたいと思っている。しかし当館の藏品には世界美術史上,高い位置にあるものがかなり所蔵されており,一般の人には理解しにくいものが多くある。一般よりむしろ専門家に喜ばれる美術館といえよう。

多くの人々に見ていただくのも良いが,またその反面,専門家のために人気の少ない所で,静かにじっくりと鑑賞していただくのも美術館の社会教育として大切なことであると考え。今後もこれら専門家に好まれる学問的水準の高い展覧会も出来るかぎり催してゆきたいと思う。

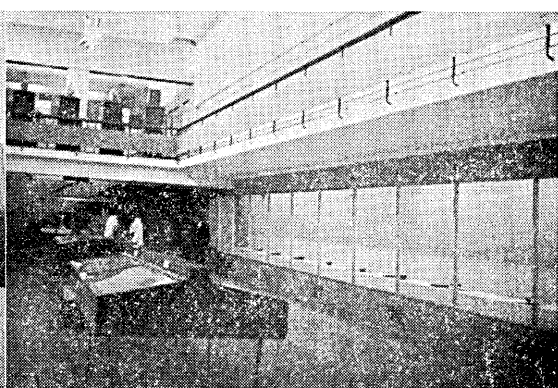
3

この美術館はほかの新しい美術館や博物館などとは展示方法がかなり異なっている。それは冷暖房や空調など,現代の先端をゆく科学的な機械を装置せず,機械にたよらないで行なっていることである。その大きな理由はこれらの機械が及ぼす美術品への影響を考えるからである。まだこれらの機械に完全にたよれないのである。すなわち美術品の保存上やむなく機械類を使用しないのである。たとえば温湿度を調節する機械があってもそれを朝9時頃,出勤時間にスイッチを入れ,午後5時頃の帰宅する時間にスイッチを切るとする。するとそこに温湿度の変化が生じるであろう。美術品にとってこの温湿度の変化ほどこわいものはないのである。

この機械を一年中回転させる方法もあるが,停電にな



根津美術館の玄関



根津美術館の陳列室

ることも、故障することもあるだろう。そこで当館で採用している展示方法は表を見ていただければわかるが、機械にたよらない自然（季節）にそくした展示方法を行っている。具体的な例をあげて説明すると、絵画の彩色の強いもの（仏教絵画や大和絵など）はだいたい春秋の好シーズンしか展示しない。中でも国宝尾形光彬筆の燕子花図屏風や国宝那智滝図などは、もちろん春秋の好シーズンで、それも長くて10日間前後陳列するだけである。

冬の乾燥のはげしいシーズンには金工や陶磁、書跡、彩色のない絵画（水墨画、墨絵）など、乾燥してもさしつかえない蔵品を展示している。また梅雨時の6、7月の高温多湿の時には漆器や陶磁など、湿度が高くても悪影響を及ぼさない物を展示している。これはこの美術館の蔵品が東洋の古美術であることもこのような展示方法をとっている原因にもなろう。収蔵庫は関係湿度が60パーセント代の時はなるべくドアを開放して温湿度の調節をはかるようにしている。美術品も人間と同じように温度が18度、関係湿度60パーセントぐらいの時が適温適湿であるらしい。

この美術館の収蔵庫は明治から大正期にかけて建造された土蔵づくりであるが、温湿度を計てみると、最近よく建設される鉄筋コンクリートなどより数段よく調整されていることがわかる。この収蔵庫は夏は比較的涼しく、冬は暖かい。

展示品を陳列する時に同じ蔵品であっても、その陳列の仕方によって、随分違った角度でとらえることができる。たとえば漆工を例にとってみると、蒔絵、平文、堆朱、堆黒、螺鈿……という順序で漆の技法を主とした展示法や平安、鎌倉、室町、または明、清などの順序で歴史的に陳列する方法など、工夫すればいく通りでも陳列方法は考えられる。なおここでは特別展に関しては図録が出版されているので、詳細は、省略した。

最後に私はなぜこのような拙文を書いたのか、ここで結論を述べなければならない。

現代、新設される美術館は陳列館や収蔵庫などの建造物やエアコン、冷暖房などの科学的装置はたいへん立派なのだが、所蔵品は0に近いという状態の美術館が多い。「これら科学的装置が完全であるから保存は安全だ」という考えはあまり感心出来ない。根津美術館のような古美術を中心としたものと近代美術館とは多少異なるであろうが、美術館は所蔵品あつての美術館で、これら建造物や科学的装置は第二あるいは第三に考えれば良いのではないか。もっと中味を主体にして考えるべきである。展示をやっている者として根津美術館の展示方法を取りあげてみたが、展示方法や保存方法も、ここでもう一度検討してみる必要があるのではないだろうか。多少でも参考になると幸いである。

（やざき いたる 根津美術館）

※Nezu Museum, Tokyo